

# 専大スポーツ

【専大スポーツ】<https://www.senshu-u.ac.jp/sports/>  
No. 411

専大スポーツ  
編集部  
公式WEB  
Twitter @sensuponow  
Instagram sensuponow

他艇を引き離し1位でゴール



優勝を喜ぶ大久保主将(右)と喜友名



## K2 200<sup>メートル</sup> 大久保・喜友名ペア

# 大学日本一

## 悔しさバネに盤石のレース

全日本学生カヌースの合ったスタート。そこからぐんぐんと加速し、後半は他艇を引き離す盤石のレース運びだった。大久保主将は、「優勝できてうれしい。2人で改善点を話し合いながら鍛錬を続けてきたことで結果がついてきた」と喜びを口にした。

カヤックペア(K2)の200メートルで、大久保泰成主将(商4・分水高)・喜友名泰志(商3・沖繩水産高)ペアが34秒469で優勝した。専大が個人種目を制するのは24年ぶり。

「昨年は4位に終わり、悔しさを味わった。この1年間、雪辱を果たすことを目標にしてきた」と強い気持ちで臨んだ今大会。予選をトップのタイムで通過し、危なげなく決勝進出を決めた。迎えた決勝戦。「昨年は1パドル目のミスで大幅に出遅れてしまった」という反省を生かし、息

6位に入賞した。喜友名は「来年の目標は団体の男子カヤック部門で3位以内に入ること。各種目でも上位に入賞できるように選手一人一人が今大会で見つけた課題を克服し、チーム全体の底上げを図りたい」と、来年を見据えて力強く語った。

### 接戦制し3位 日本選手権へ

日本選手権水泳競技大会水球競技・最終予選会10月3〜6日、新潟県・ダイエープロビスフェニックスプール

専大は3位決定戦で健志台クラブとの接戦を15



健闘した水球チーム

## 創部以来最高の団体5位

全日本学生アーチェリー男子王座決定戦11月15・18日、大阪府・服部緑地陸上競技場

男子王座決定戦の団体に、吉田和希主将(経済4・千葉黎明高)、大倉秀太(経済3・都立山崎高)、山本陽生(文3・千葉英和)、山内翔(経済2・越ヶ谷高)の4人で臨み、創部以来最高成績となる5位に入賞した。

予選ラウンドを8位で突破。決勝ラウンド1回戦で慶大に勝利し、続く準々決勝で日体大と対戦した。団結力を武器に前年度王者相手に善戦し



団結力を発揮した団体メンバー。左から山本、山内、吉田主将、大倉

だが、勝負どころでのミスが響いて敗退。獲得ポイントによる順位決定の結果、5位となった。選手たちはこの結果に満足はしていない。吉田

う状況のなか、4位と健闘した。鈴木主将は「連携に課題が残ったが、個人の力ができた」と話した。

## OG菊池さん2度目の日本一

全日本フェンシングは3連続ポイント奪取を奪取し、15-12で勝利した。菊池さんは同種目団体の東京五輪日本代表候補の一人。今大会は選考に直結しないものの、大きなアピールとなった。

フェンシング部OGの菊池小巻さん(金31商)が女子フルフルで4年ぶり2度目の優勝を果たし、日本一の座を奪還した。前回は準優勝に終わった菊池さん。決勝は昨年と同カードとなったが冷静にプレーし、最後



専大は開幕カードで大正大には1勝1敗とした

### 1部復帰へ好発進

東都大学野球秋季リーグ戦(2部)・第1〜2週11月15日〜10月3日、大田区・大田スタジアムほか

専大は開幕カードで大正大には1勝1敗とした

## 水泳部 飯田和菜



初のアーティスティックスイミング選手。今年度、水泳部に初のアーティスティックスイミング(A.S.)の選手が誕生した。高校までチームで活躍していた飯田和菜(文1・浦和学院高)は専大に入学し入部を機にソロに転向。9月19日の日本学生選手権水泳競技大会A.S.競技(マーメイドカップ)は15位だったものの、初出場ながら華麗な演技を披露。専大水泳部の一員として競技の面白さを多くの方に伝えていきたい。

## 表現力磨きたい

「ソロの魅力は、自分の表現したいことに挑戦できること。昨年の技ができるように精進する。」

日本選手権ではチームでメダルを獲得し、喜びと達成感を味わうことができた。ソロは自分一人で考えて表現せねばならず、それを点数に結びつけることは簡単ではないが、チームにはない楽しさを感じている。

大会を終えての感想と今後の目標は。

沈み込みや足技に課題も残ったが、コロナ禍の少ない練習時間のおかげで、本番をしっかりと泳ぎ切ることができた。表現力を磨き、今年より良い点数を目指す。